

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03214

研究課題名(和文) 北欧におけるアジア産陶磁器交易の基礎的理解

研究課題名(英文) The Basic Study on Trading of Asian Ceramics in Northern Europe

研究代表者

高島 裕之 (Takashima, Hiroyuki)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：30583819

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、北欧にアジア産貿易陶磁器が運ばれた実態を明らかにすることを目的とした。研究方法として、1745年にスウェーデンのイエーテボリ沖で沈んだスウェーデン東インド会社のイエーテボリ(Gothenburg)号出土資料、および1752年に南中国海で沈んだオランダ東インド会社のヘルデルマルセン(Geldermalsen)号の資料を実見して比較を行ない、詳細に分析した。また、デンマークのコペンハーゲン市出土アジア産陶磁器について全破片の写真記録を行なった。

その結果、アジア産陶磁器のヨーロッパ内での流通の境界域である北欧において基礎資料を提示し、問題提起することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

具体的な資料を基に、アジア産陶磁器交易グローバル化の実態を明らかにすることができた。特に現地で堅実な資料集を行なったことで、北欧において日本の有田磁器の流通の境界をより明らかにする基礎的研究を進めることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the actual situation of Asian trade ceramics in Northern Europe. As a research method, the excavated material of the Gothenburg of Swedish East India Company which sank off the coast of Gothenburg in 1745, and the Geldermalsen of Dutch East India Company which sank in the South China Sea in 1752. I actually observed, compared, and analyzed these materials in detail. In addition, all fragments of Asian ceramics unearthed in Copenhagen, Denmark were photographed.

As a result, I was able to present basic materials and raise questions in Northern Europe, which is the boundary region of the distribution of Asian ceramics within Europe.

研究分野：考古学

キーワード：スウェーデン・イエーテボリ号 デンマーク・コペンハーゲン アジア産陶磁器 中国景德鎮窯 日本 有田窯 貿易陶磁(貿易陶磁) 東インド会社 オランダ・フローニンゲン博物館

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国でのアジア - ヨーロッパ間の貿易陶磁器研究は、「主に美術史の分野のヨーロッパにおける伝世品を中心においた研究」、「主に考古学の分野のヨーロッパの発掘資料を中心においた研究」、「主に日本で行われた肥前磁器を中心においた研究」に分けられて進展してきた(堀内・金田 2016, pp.41-42)。いっぽうでヨーロッパの中でイギリス、オランダなどの地域と比べ、北欧に運ばれたアジア産陶磁器の実態について、これまで深く掘り下げた論考は少なく、その受容の様相について明らかにすることが有効である。

北欧に運ばれたアジア産陶磁器の様相を探る手がかりとして知られるのが、スウェーデン東インド会社の船、イエーテボリ(Göteborg)号(1745年沈没)の発掘調査資料であり、現地陶磁器の実見、実測調査を進め、北欧のアジア産陶磁器交易に関する新知見を得たいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、北欧における陶磁器受容の様相について正確に把握し、アジア産貿易陶磁器が運ばれた実態を明らかにすることである。わが国では本格的な研究の少ない北欧を主なフィールドとして、17世紀、18世紀のアジア産貿易陶磁器を中心に、流通遺跡、消費遺跡の個々の資料の特徴を抽出し、他のヨーロッパ地域、特にオランダと照射しながら、受容者の要求とそれに答えた生産者の意図を読み取る。地球的規模で行なわれたアジア - ヨーロッパ間の交易を明らかにする新視点について、具体的な資料を基に提示し、アジア産貿易陶磁器研究を深化させることである。

3. 研究の方法

北欧に運ばれたアジア産陶磁器の産地を正確に同定し、時代性、組成、地域性、生産地および北欧への流通経路を理解するため、コペンハーゲン(消費遺跡)・イエーテボリ号(流通遺跡)・フローニンゲン博物館(ヘルデルマルセン号・比較、検討資料の収集)・有田・三川内(生産遺跡)での現地調査を計画し、資料の情報収集を実施した。現地調査においては実物資料に悉皆的にあたり、成形、装飾内容も含めた熟覧、観察、実測、写真撮影を行ない、製作技術を理解するための調書を作成することを基本とした。

・調査/海外

2017年9月6日～15日 イェーテボリ海洋博物館、フローニンゲン博物館

2018年1月3日～1月11日 フローニンゲン博物館

2018年9月4日～9月15日 イェーテボリ海洋博物館、市立博物館、フローニンゲン博物館、
アムステルダム国立博物館

2019年1月19日～1月25日 フローニンゲン博物館

2019年9月9日～19日 イェーテボリ海洋博物館、市立博物館、フローニンゲン博物館

・調査/国内

2017年10月30日～11月1日 源右衛門窯古伊万里資料館、有田町出土文化財管理センター

2018年10月29日～10月31日 源右衛門窯古伊万里資料館

2019年3月24日～27日 有田町出土文化財管理センター、三川内皿山

2019年6月16日～19日 瀬戸市、有田町出土文化財管理センター、平戸松山窯

2019年12月23日～25日 有田町出土文化財管理センター、平戸松山窯

2022年11月20日～23日 平戸洗祥団右工門窯他

・研究協力者・機関(敬称略・順不同)

<スウェーデン>

Christian Thorén, Åsa Engström(イェーテボリ海洋博物館・市立博物館), Anneli Blom(スウェーデンパフォーミングアーツ博物館), Josefine Kilner(ローサカ博物館), Lars Olf Löf(考古学研究者)

<デンマーク>

Rikke Søndergaard Kristensen, Thomas Roland, Jane Jark Clausen(コペンハーゲン市立博物館)

<オランダ>

Christiaan J. A. Jörg, Marlon Steensma(フローニンゲン博物館), Menno Fitski(アムステルダム国立博物館), 金田明美(考古学研究者)

<日本>

村上伸之，山本文子，金子昌司，溝上隼弘，中里月度務，中里太陽，松尾治，松原朗，土屋昌明

<機関>

イエーテボリ海洋博物館，イエーテボリ市立博物館，コペンハーゲン市立博物館，
フローニンゲン博物館，アムステルダム国立博物館，有田町出土文化財管理センター，
佐賀県立九州陶磁文化館，源右衛門窯古伊万里資料館，平戸松山窯，平戸洗祥団右工門窯

また，専修大学各部門の方々に多大なる協力を賜った。

4．研究成果

本研究は，北欧における陶磁器受容の様相について正確に把握し，アジア産貿易陶磁器が運ばれた実態を明らかにすることを目的としている。これまでスウェーデン・イエーテボリ海洋博物館，イエーテボリ市立博物館，デンマーク・コペンハーゲン市立博物館，オランダ・フローニンゲン博物館での現地調査で，次の点を明らかにした。

(1) 中国の広東とスウェーデンの間を航海し，1745年にスウェーデンのイエーテボリ沖で沈んだイエーテボリ(Götheborg)号出土の中国景德鎮瓷器は，オランダ東インド会社の1752年に沈んだヘルデルマルセン(Geldermalsen)号の資料と比較すると，器種の種類が限定される。

(2) イエーテボリ号で1点確認されている日本の有田内山産の染付皿は，内底全体に擦痕がみられるため，交易品ではなく，船内での使用品である。

(3) イエーテボリ号の資料として中国景德鎮窯瓷器以外に，中国宜興窯の茶銚(急須)蓋，中国南部産の青花碗，コンテナ容器としての褐釉陶器，灰白色の素地でやや軟質のフィギュアの一群など，日本で把握されていない種類の陶磁器を確認した。

(4) 瓷器梱包材(ワラ包装をまとめる時の竹ひご(瓷べつ))に，包装の中身を示した漢字の表記を確認し，広東での取引の実像を明らかにできた。

(5) デンマークのコペンハーゲン市立博物館で調査したコペンハーゲン出土の日本有田磁器について，染付芙蓉手皿1点，色絵染付皿2点，計3点の写真と実測図を作成し，資料化した。

そして成果を公開する最終報告書については，国際的に活用できるよう配慮し，英文翻訳を含めた構成とした。図版については，資料の実測図と写真を共に掲載する体裁とし，写真のみで紹介する従来の研究をさらに深化させた形での編集に努め，2023年3月に完成した(『The Basic Study on Trading of Asian Ceramics in Northern Europe 北欧におけるアジア産陶磁器交易の基礎的理解 科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書』)。

今回現地で堅実な資料集成を行ない，グローバルな視点で有田磁器の流通の境界を明らかにする基礎研究を進めることができた。コペンハーゲンで確認されている有田磁器が18世紀前半に廃棄された出土状況からは，19世紀以降にコレクションされたアンティークとは考えられないため，明らかに北欧の消費遺跡で消費された資料として位置づけることができる。そしてコペンハーゲンまでは有田磁器が交易品として運ばれ，使用されていたことが明らかである。またスウェーデン・イエーテボリ沖で1745年に沈んだスウェーデン東インド会社の船イエーテボリ(Götheborg)号の有田磁器について実見し，1点のみ確認された船内での使用品であり，交易品ではないことを明らかにした。今後の課題として，スウェーデン・イエーテボリでは市内の消費遺跡で中国瓷器が確認されており，日本磁器の紛れ込みも含めてその資料の再検討を進めることで，さらに北欧における有田磁器の流通の境界を明らかにできると考えている。

<引用文献>

堀内秀樹・金田明美 2016『『陶磁の道』以降のアジア ヨーロッパ間の陶磁器研究と流通研究の視点』『東洋陶磁 Vol.45』東洋陶磁学会，pp.41-57

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高島裕之	4. 巻 110
2. 論文標題 デンマーク・コペンハーゲン出土の有田磁器	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 255-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高島裕之	4. 巻 No.722
2. 論文標題 「日本における貿易陶磁の転換期」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『考古学ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 5-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高島裕之
2. 発表標題 「佐賀県有田町南川原窯ノ辻窯の調査成果」
3. 学会等名 第11回近世陶磁研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高島裕之・Anneli Blom
2. 発表標題 「スウェーデン東インド会社によるアジア産陶磁交易の具体像」
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会研究発表(ポスター)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高島裕之・山本文子・Anneli Blom
2. 発表標題 「スウェーデン・イエーテボリ号出土陶磁器の新知見」
3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会研究発表(ポスター)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高島裕之
2. 発表標題 「オランダ・フローニンゲン博物館所蔵肥前磁器の考古学的研究」
3. 学会等名 日本考古学協会第83回総会研究発表
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 高島裕之(編)・山本文子・Anneli Blom	4. 発行年 2023年
2. 出版社 専修大学陶磁文化研究室	5. 総ページ数 96
3. 書名 『The Basic Study on Trading of Asian Ceramics in Northern Europe 北欧におけるアジア産陶磁器交易の基礎的理解 科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書』	

1. 著者名 高島裕之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 16
3. 書名 「スウェーデン・イエーテボリ号出土陶磁器の研究」佐々木達夫編『中近世陶磁器の考古学第14巻』	

1. 著者名 高島裕之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 10
3. 書名 「Groninger Museumの沈没船資料 Geldermalsen号発見の陶磁器」菊池誠一先生・坂井隆先生退職記念 論文集編集委員会編『港市・交流・陶磁器 東南アジア考古学研究』	

1. 著者名 高島裕之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学埋蔵文化財調査室	5. 総ページ数 12
3. 書名 「18世紀の沈没船資料にみる福建・広東諸窯の貿易陶磁器」堀内秀樹編『調査研究プロジェクト6 18・19 世紀の福建・広東諸窯の貿易陶磁器 資料報告集』	

1. 著者名 高島裕之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 20
3. 書名 「海外に運ばれた有田磁器の製作技術ーオランダ・フローニンゲン博物館所蔵資料の考古学的研究」 佐々木達夫編『中近世陶磁器の考古学第10巻』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

スウェーデン	イエーテボリ海洋博物館	イエーテボリ市立博物館		
デンマーク	コペンハーゲン市立博物館			
オランダ	フローニンゲン博物館	アムステルダム国立博物館		